

令和元年度 第2回総合教育会議議事概要

令和2年2月4日(火)に令和元年度 第2回総合教育会議が開催され、「新しい時代を生きる子どもたちに必要な力をつける教育へ」をテーマに意見交換が行われました。

第2回総合教育会議の議事概要は別添のとおりです。

令和元年度 第2回総合教育会議 議事概要

日時: 令和2年2月4日(火)
午後1時10分～2時40分
場所: ハピネスふくちやま会議室1

■出席者(敬称略)

教育長 端野 学
教育委員 倉橋 徳彦、塩見 佳扶子、和田 大顕、大槻 豊子
市長 大橋 一夫
事務局
市長公室理事、経営戦略課長

■開会 大橋市長挨拶

- ・ 昨年6月に開催した第1回総合教育会議では、情報技術の進歩に伴う社会経済環境や価値観の変化、地球温暖化の影響による気候変動など、子どもをとりまく環境が大きく様変わりする中で、子ども自身が未来を切り拓き、生き抜く力を育成するために必要なプログラミング教育や防災教育など、子どもの将来を見据えた新たな取組について意見交換をさせていただいた。
- ・ このような取組は、今すぐ成果となって現われるものばかりではないが、今身につけておくことで、子どもたちの将来にとって必ず役に立つものと思っている。
- ・ また、教育行政全体の大きな動きでは、令和2年度は小学校で新たな学習指導要領が実施されるなど、大きな節目の年であり、本市でも教育行政に関わる重要な計画の改定時期にさしかかり、「教育のまち福知山」のさらなる発展に向け大切な1年を迎えることになる。
- ・ 今回は、こうした大きく変わりゆく時代に求められる、子どもたちに必要な力を身につける教育を実現するために、本市の教育をどのように発展させていくべきかについて、令和2年度が計画最終年となる本市の「市立学校教育改革推進プログラム」の実施状況や、これから必要とされる教育の取組について意見交換をお願いしたい。
- ・ それでは、短い時間ではあるが、委員の皆様の忌憚のないご意見をお願いするとともに、この会議を通して本市教育の振興が図られますことを期待し、開会の挨拶とさせていただきます。

■議事

意見交流 テーマ「新しい時代を生きる子どもたちに必要な力をつける教育へ」

議題1 「市立学校教育改革推進プログラム」の振り返り

大橋市長

- ・ 今回は「新しい時代を生きる子どもたちに必要な力をつける教育へ」というテーマを設定した。本会議ではこれまで、「プログラミング教育」、「持続可能な開発のための教育」などを題材として、これまでとは違った新しい時代を生きる子どもたちにとって必要な力や環境は何なのかを、委員の皆様と活発に議論してまいった。

- ・ そうした中、令和2年度については、これまで10年にわたって教育委員会で進めてこられた「市立学校教育改革推進プログラム」の最終年度ということもあり、福知山市の新しい時代の教育の方向性を具体的に定めるための、重要な時期と考えている。
- ・ まず、教育委員会よりこれまでの教育改革推進プログラムの振り返りをお聞かせいただく中で、これからの福知山市の教育に必要なものは何か、一定のお考えを頂戴したい。その後、私の思いもお伝えしつつ、委員の皆様と意見交換をさせていただければと思う。
- ・ それでははじめに、端野教育長よりプログラムの振り返りをお願いする。

端野教育長

- ・ 平成23年から令和2年までの10年間の振り返りをさせていただく。
- ・ この改革の始まり、1市3町合併の平成18年1月1日当時の学校の状況は、市立学校数27小学校、10中学校という中で、児童生徒数が激減していた。具体的には27小学校のうち12小学校で複式学級を編成しなければならず、中には複々式学級もあった。
- ・ その中で学校教育を考える際、教育の質として、教師が教える面、子どもたちが学ぶ面、子どもたちが育ちあう面、そういった部分がなくてはならないと考えた結果、学校編成・組織についても一定の規模、人数が必要という現状分析を行い、平成20年に福知山市立学校審議会が立ち上がった。
- ・ 福知山市の学校教育、教育環境の2点について諮問を行い、平成21年3月27日に答申を受けた。答申の中では、「将来の福知山市の礎を築くものとしてとらえ、「教育のまち福知山」を標榜する教育改革の取組を市民の理解を得ながら鋭意進められることを願う」と占められている。
- ・ 答申を基に、教育委員会において、教育総務課では教育改革推進プログラムの検討、学校教育課では保幼小中一貫連携教育「シームレス学園構想」の検討、生涯学習課では「家族団らんの日」の設定、それぞれ3課で検討協議を進め、福知山市学校教育改革推進プログラムを平成23年6月14日に策定した。そこから平成23年～27年の5か年を前期計画、28年から令和2年までを5か年を後期計画として計10年をプログラムとして進め、現在最終段階にある。
- ・ 前期振り返りとしては4点ある。1つ目は小1プロブレムや小5ギャップ、中1ギャップなどの、各節目で子どもたちが陥る課題を解消していったこと。就学前から中学校までの一貫した連続性のある指導、子どもの学びを意識してスタートをきった。課題はありつつも、教職員の意識も高まった。
- ・ 2つ目は学力充実の状況。これまでは大規模校と小規模校で学力充実の違いが明らかであり、大きな学校はどうしても課題がでてくるが、小規模校はそうではないといった傾向が強かった。しかし、成果・課題の分散が見られるようになり、学校規模によって成果のあるなしが変わらない状況となった。
- ・ 3つ目は生徒指導について。暴力事象や逮捕など、反社会的な事象の件数が明らかに減

少した。子どもの行動が、反社会的行動から非社会的行動に変わりつつある。

- ・ 4つ目は進路状況について。出口指導である進路指導だけでなく、自分の性格や職業観、将来設計等を含めて考えるキャリア教育への転換が見られた。
- ・ 前期の学校規模適正配置については、25年度に夜久野の精華、育英、明正の3小学校が統合し、夜久野中学校敷地内に施設一体型小中一貫教育校「夜久野学園」ができた。26年度には川合小学校が細見小学校へ統合、三岳小学校が上川口小学校へ統合。27年度には23小学校、9中学校となった。これらは、地元要望を受け、保護者・地域住民の理解と協力を得て、丁寧に協議を行いながら進めてきた。
- ・ 後期計画については、平成28年度から令和2年度まで、あと1年ある。教育内容に見られる変化として顕著なのは、中学校の姿である。具体的には、卒業式、入学式等で、中学生の歌声が聞こえるようになったこと。これまで中学生の歌声はあまり聞こえず、歌の代わりにテープを流したり、ざわつきもあった。合唱祭などの行事中に事象が発生するようなケースもあったが、これがなくなった。
- ・ 細かく分析する必要はあるが、シームレスの影響が大きく働いたと考えている。例えば最近中学校を訪問した際に、不思議と小学校のにおいがする。教室の経営状況、環境が小学校に似てきた。そういった環境が中学生の心を育てることになり良かったのではないかと考えている。
- ・ 学力、学習、生徒指導、進路の状況、これらの基準が小・中学校の間でシームレスという視点で共有化された結果と考えている。そして、児童・生徒がそれぞれ交流し、教員が行き来し、中学校教員が専科指導するなど、小・中入り乱れた教育が、市立学校のブロック内で展開されたことが大きい。そしてそれぞれの中学校の変わり様が、市立学校全てで一般化したと思っている。
- ・ 後期の学校規模適正配置については、平成30年度に上・中・下六人部小学校が統合し、下六人部小学校の名前が六人部小学校となった。同じく菟原小学校と細見小学校が統合し、翌年度に三和中学校敷地内に施設一体型小中一貫校「三和学園」が誕生した。そして、令和元年度には嵯峨小学校が遷喬小学校へ、天津小学校が修斉小学校へ、金谷小学校が上川口小学校へ統合する。令和2・3年度については美河・美鈴・有仁小学校が統合し、大江中学校敷地内に小中一貫教育校が誕生する予定である。そして令和3年度には市立学校での教育学校の整備が終了し、複式学級編成が解消される。
- ・ そうした状況で、今日の総合教育会議のテーマでもある、新しい教育のまち福知山の実現に向けて、どんな子どもを育てるか、どういう教育が必要かということを考えていく時期となった。プログラムの後期計画には、新たに審議会を立ち上げ次の教育を考えるべきといった文言も入っている。そのため、今年度末から来年度にかけての作業が必要になってくる。
- ・ 今日の総合教育会議中で、市長から市の事業などの話を聞くことが、まちづくりの中でも非常に大事である。一方で、教育のまち福知山の目指す理念はかわらない。まちづく

りは人づくり、人づくりの基本は教育にあると考えている。福知山の教育目標である、「自分のために、人のために、社会のために」、共に幸せを生きる人材の育成、これを掲げて、市長の考えもお聞きしながら、それをいかに教育の内容に落とし込んでいくか、これが教育委員会の大きな仕事と考えている。協議をお世話になりたい。

議題2 これから必要とされる教育の取組

大橋市長

- ありがとうございます。市立学校教育改革推進プログラムの振り返りの中で、中学校の大きな変化、学校統廃合の進捗があった。こうした中で、これからの福知山の教育に必要なものは何なのかということについて意見交換したい。
- 様々な視点、観点があると思うが、本日は4つのテーマについて話をさせていただき、ご意見を伺いたいと思う。
- 1つ目は、ソサエティ5.0に向けた人材育成。EdTech（エドテック）をどのように展開していくかというテーマ。EdTech というとあまり馴染みがないかも知れないが、教育（Education）と技術（Technology）を掛け合わせた言葉である。文部科学省で考えを出してきており、経済産業省も様々な話を進めている。これを福知山の教育の中でどのように取り組んでいくか。
- 2つ目は、先ほど教育長からもあったが、キャリア教育を中核として、勤労観、そして福知山を誇りに思い愛する郷土愛の醸成ということをどのように取り組んでいくか。
- 3つ目は持続可能な社会づくりの担い手の育成。SDGsに根差した教育にどう取り組んでいくか。
- 4つ目は子どもたちの体力の向上、健康教育。今後市内でもスポーツイベントを予定しており、それに子どもたちがどう参画していくか、あるいはスポーツ・運動に興味を持って自ら身体を動かしていくか。
- 以上4点についてお話をさせていただく。

1 ソサエティ5.0に向けた人材育成

- EdTech については、AI、IoT、データサイエンスが発達する時代を迎え、福知山市でも府内で先駆けてプログラミング教育を始めている。先が見えづらいこの時代で、確実にAIやICTが社会の基盤と既になってきている中で、こうした新しいテクノロジーをどう活用して教育に取り組んでいくか、文部科学省でも示されているところであるが、今後、児童生徒、教師、行政がどう役割分担して取り組んでいくかということになるかと思う。
- 例えば、教育現場においては教員のみなさんの働き方改革をどう進めるか、行政の方ではビッグデータをどう教育に利活用していくか、学習支援としては、AIを活用して個

別最適化した学習内容を提供するアダプティブ・ラーニングなどをどう取り入れるかなどがある。いずれにしても、データなどの基盤整備をしっかりとやっていく必要がある。

- ・ また、遠隔授業についても本市における必要性について議論は必要だが、学校間の交流といった視点でも、規模の小さな学校に対する授業の支援や、合同授業なども対応できると思っている。
- ・ 個人情報に対する最大限の対応は必要であるが、公務支援システムによる成績処理、勤怠管理、各種情報集計や自動分析による効率的、効果的な授業展開という視点もある。
- ・ 外国語教育、特別支援教育面でも活用できる部分があるのではないかと思っている。
- ・ 経済産業省は「未来の教室」ビジョンというものを作っている。学びの「※STEAM化」といったことが言われており、これらを総合して、EdTechを「教育のまち福知山」としてどう進めるか、私自身しっかり取り組んでいく必要があると考えている。

2 キャリア教育を中核とした勤労観、郷土愛の醸成

- ・ 私自身福知山で生まれ育ち、愛着も誇りに思う気持ちがあるが、いろんな観点で子どもたちが福知山で活躍している人、あるいは市外で活躍する福知山出身者と直接し、話を聞くということも必要ではと思っている。
- ・ これまでも杉本シェフに学校給食でご協力をいただいた。世界レベルでプロフェッショナルに活躍されている方と直接触れ合うのは貴重な体験である。料理に限らず、様々な分野で活躍される方と触れあうことで、福知山を誇りに思えるようになるための機会となる。
- ・ 一方で、市外の方だけでなく、福知山の中で活躍されている方々から話をいただければと思う。単に自身の仕事としてではなく、例えば地域づくりをしたり、地域の中で自分のまちを元気にするために頑張っている方と接することが、キャリア観の育成につながる。
- ・ また、福知山公立大学の先生、学生と子どもたちの交流も、違った側面からのキャリア教育の学習になるのではと思う。
- ・ こうした市内外を問わず地域に根っこをもった人材を活かし、新しい福知山を生み出す人材を育む教育を行っていきたい。

3 持続可能な社会づくりの担い手の育成

- ・ 教育はSDGsの4番目の目標に係る直接的な内容だが、今回はクールチョイスに関わっての話であり、子どもたちが環境問題について考えていくことが大事かと思う。
- ・ 環境問題という括り方をすると広く捉えられるが、人が環境に係わらないで生活することはあり得ない。SDGsの前身であるMDGsが2000年にできたが、その時代は「開発途上国を何とかしよう」という形で始まり、当時はパブリック・セクター（行政）が取り組もうとするものであった。SDGsができた2015年には、先進国も開発途上国

※STEAM化…Science、Technology、Engineering、Art、Mathematicsの頭文字を組み合わせた造語。科学的、数学的な基礎を育成しながら、批判的に考え、技術や工学を応用し、想像的・創造的なアプローチで課題に取り組むように指導を行う。

もみんなで作っていかこうとする趣旨に変わり、取り組む主体もパブリックだけでなくソーシャル・セクター（NGO等）、プライベート・セクター（民間企業）も一緒になって持続可能な社会、世界づくりを目指すため、SDGsがスタートした。

- ・ 近年は身近なところで災害が頻発し、気候変動が顕著に表れている状況。パリ協定では世界の気温上昇を2度以内に抑えようというのが目標であり、1.5度以内に収めるよう努めようとも言われている。しかし、現実には起きている気候変動は非常に厳しく、温室効果ガス排出も削減できている状況にはない。
- ・ 未来を生きる子どもたちがこうした環境問題を意識できるようにすべき、ということで市でも取組をすすめていきたいと思っており、そんな中で「未来への挑戦」という、クールチョイスを学べる教材を作成した。小学校4年生以上に配布させていただきたいと考えている。
- ・ こうしたことを教育の中で取り組んでいく時代を迎えているのではと思っている。今回のテーマはクールチョイスだが、SDGsそのものについて言えば、今年度から、同じ時間を生きている世界の子供たちがどんな環境で生活をしているのかを知るための平和学習を入れさせていただいた。今この瞬間にも、戦争、飢餓等で亡くなっていく子どもたちがいるという世界の現実を認識してもらいたいという思いで、SDGs取組として授業を入れさせていただいた。

4 体力向上や健康教育の充実

- ・ 子供たちの体力を何とか向上できないか、健康教育ができないかという思いがある。残念な結果であるが、小中学校対象の全国体力テスト2019年度の結果が、全国的に男女とも前年度結果より低下傾向であった。特に小学校男子が低くなっており、調査開始の平成20年度以来過去最低点数といった結果となった。京都府はこの全国の点数よりも下回っているという状況である。
- ・ 子どもたちがスマートフォン等を使って身体を動かさず家の中で過ごしたり、仮に外へ出たとしてもスマホ、という状況もあるのではと思う。身の回りの利便性が増す一方で、子どもたちの体力が低下しているという現状がある。
- ・ こうした中で、今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、5月の26日にも市内でも聖火リレーが行われる。ぜひとも子どもたちにその様子を見てほしいと思っている。
- ・ さらに、今年夏には高校インターハイ、来年度はワールドマスターズゲームズもあり、福知山市自体にもスポーツイベントが続く。合わせて昨年からはチャレンジデーという取組も始めた。これは子どもたちだけでなく市民総参加型のスポーツイベントであるが、ぜひ子どもたちにも身体を動かしてほしいという思いで、教育委員会にも大変ご協力をいただき、市内の市立小中学校の約6000人の子どもたちに参加してもらえた。小学校では全児童数の95.8%、中学校では99%の生徒に参加してもらい、運動の楽し

さを知っていただく機会になったのではと思っている。

- ・ こういったことを続けて実施し、運動のきっかけづくりしていきたい。子どもたちの体力向上、健康教育の充実を図っていくことが重要と思う。
- ・ 以上、これからの福知山市に必要な教育について、4点お話をさせていただいた。委員の皆様からご意見をいただきたい。

和田委員

- ・ 私からは、成熟した大学との関わりが、これからの福知山を担う子どもたちにとって大切という話をしたい。
- ・ 今、福知山市はNHK大河ドラマ「麒麟がくる」で、市民の皆様が熱くなっている気がする。ここ9カ月の福知山城の入館者数も8万2千人を超えたということで、本市を訪れるお客様も右肩上がりといううれしい情報を聞かせていただいた。これは、市長が具体的に「麒麟がくる」、「明智光秀」という市民に分かりやすい旗印を掲げて、市民も市役所もそれに向かい取り組んできた成果と推察している。
- ・ 最近、厚生労働省で発表している合計特殊出生率のデータが目につき、全国813地区の中で、福知山は全国9位、近畿2位、京都府1位という情報を得た。これは保幼小中高大とつらな教育環境が要因であろうと思うし、子育て支援センター、子育てコンシェルジュ、ファミリーサポートセンターなど、地域をあげて子どもたちを育てる環境、組織づくりがこの結果に至らせているのではと感じている。
- ・ しかしながら、福知山市で生まれ育ち、生活をする人数は決して多くなく、本市へ移住する人数も伸びていないと聞いている。移住・定住サポートセンターの「福知山市暮らし体験ツアー」で、福知山市移住ライフのおすすめしているセールスポイントの一点目に、「環境、充実した教育、人のつながり」が上げられている。
- ・ 子育て世代にとって、自分の住むまちの教育の環境は、特徴は、内容は、方法は、といったことが極めて大切な関心事であり、定住を決める条件である。恵まれた自然環境を抱えた中核都市の福知山で、教育によるまちづくり、教育による移住者の呼び込みはおおいに期待できるのではと思っている。
- ・ 教育の中立性は厳守した上で、教育の実践・具現化は教育委員会と教育現場が担うとして、教育のまち福知山のための、麒麟が来ると同様の旗印、一点突破のための「一点」が必要と考えている。福知山が府内でも先導的に取り組んだプログラミング教育なのか、ITなのか、英語か、小中一貫か、公立大学との連携による情報教育か、福知山の教育はこれだという市内外に訴える内容が、ここに示されることが大切と考えている。
- ・ 新しい学習指導要領は、子どもたちが疑問や発想を活かして課題を体験的な活動を通して解決する力を大切にする、経験主義的な知識を組み込んでいる。これまで技術を体系的に積み上げることを重視してきた系統主義的知識と融合した形が、今回の学習指導要領の改訂と考えている。これら全ての教育で、コンピュータの取組と関連付けられるも

のがプログラミング教育、アクティブラーニングの学習方法によって生まれてくる新しい時代を築く力だと思っている。これは、課題を見つけ、仲間と力を合わせ、手順を踏んで粘り強く解決する力であり、こうした情報活用能力を子どもたちにつけなければならないと思っている。GAFAの躍進や、AI・IoTといったトレンド用語のように、次世代に期待する力を備えた人材育成につながるのではと考えている。

- ・ 福知山市公立大学は充実期を迎え、今年度に最初の卒業生を送り出す年と聞いている。96.7%が卒業後の進路決定し、そのうち福知山市で就職先を求めた方が6人いるという嬉しい話も聞いている。今年度からできる情報学部も、既に推薦入学者38名が決定し、一般入学者にも期待できる。
- ・ 大学ではキャリア支援センターが中心となって大学公開講座や、まちライブラリー、まちギャラリーが行われ、子ども食堂など、広く社会貢献していただいている。福知山の子どもたちが高い情報活用能力を身に付けるために、教育環境だけでなく、プログラミング教育、アクティブラーニングを活用し、学習内容、学習活動でつながってほしい。
- ・ 保幼小中高大、特に大学とのつながりが、必ず次代を担う子どもたちを麒麟に育て、福知山市を麒麟のまちにすると私は確信している。このことが、教育のまち福知山の旗印になるのではと強く期待している。成熟した大学との一貫教育を期待する。

塩見委員

- ・ 私が保護者として思うことは、どの子どもも夢を持って、自分の未来にワクワクしてほしいということである。
- ・ 全ての子どもが、自分の良いところ、好きなことが見つけられる教育・環境が大切。小中学校では市内外で活躍する人のことを知る機会があったり、有名な大学の先生に来ていただいてお話を聞いたり、文化・芸術にふれる機会が昔に比べ増えており、とてもありがたいと思っている。
- ・ こうした経験を別世界のことと捉えるのではなく、自分の将来へ置き換え考えられる基礎を子どもたちに身に付けてほしい。どの子どもにも同水準の学力をつけることは難しいが、一人ひとりが得意なこと、好きなことを伸ばしていくことは可能。
- ・ 昔にはなかったプログラミング教育、英語教育が加わり、現場の先生たちや子どもたちは大変だと思うが、EdTech、ICTを活用して働き方改革が進み、それが子どもたちに良い方向で反映されれば。
- ・ 先日も、テレビ電話で昭和小学校と香港をつなぎ、自転車で世界を旅している方から食文化について学ぶという機会があった。こうした機会がどんどん増えていけばよいと思う。
- ・ SDGsについて、これまでは目にすることはあっても、なかなか自分ごととして捉えることがなかったが、前回の会議以降、とても意識するようになった。子どもたちが小学生のとき、夏休みにエコ問題の取組として、電気の消し忘れはなかったかななどをチェ

ックする宿題が出ていたが、後から思えば、これはSDGsの一環だったなと思う。

- どの学校でも、アルミ缶、ペットボトルのキャップ、書き損じハガキの回収などは日常的になっている。集めることが目的になっている面もあり、なぜこういう取組が始まったのか、取り組んだものがどこに流れていくかを今一度学び直す機会としても、この「未来への挑戦」はすごく良い教材になると思う。早く子どもたちの手にわたって、学校や、親子一緒に考える機会になればと思う。
- 先日テレビ番組で、電気がない農村に映画を届ける女性をとりあげる番組があった。その女性がケニアの子どもたちに将来の夢は何か聞くと、帰ってきた答えが少なかった。それは、「知らない夢は語れない」からであると女性は気づき、いつか途上国に映画館を作りたいという夢を持ったことが活動の始まりだとおっしゃっていた。女性はその活動を「夢の種まき」と呼んでおり、私はそれがとても素敵な言葉だと思っている。
- 形は違っても、「夢の種まき」のような取組がこの福知山で取り組まればとおもっている。「非認知能力」と呼ばれる、目標に向かって頑張る力や、他の人と関わる力、自己肯定感、自己有用感を育て、夢・目標を持った子どもたちがふるさと福知山のために貢献したり、地域に残り、また一旦出て再び戻ってきてくれるような魅力あるまちであるために、子どもだけでなく大人も元気な活気のある教育のまち福知山であってほしいと思う。

大槻委員

- 私は健康教育の充実について話をさせていただく。今年は5月26日オリンピック・パラリンピックの聖火リレーが福知山市で行われ、翌5月27日にはチャレンジデー2020に挑戦されると聞いている。市内で様々なスポーツイベントが続くので、健康づくりのきっかけになればと思う。私は教育のまち福知山であるとともに、「健康づくりのまち福知山」を目指したいと考えており、福知山で子どもたちがすくすく健全に育つ風土を作っていきたい。
- 様々な社会状況により小中学生の体力が低下しているが、大人もしかりである。スポーツに意欲関心のある人以外は、家の中にひきこもり、関心も少ない。そこで、日常的なスポーツの習慣化のきっかけのために、こういったイベントはすごく良いと思っている。スポーツによる健康づくり、そして地域活性化のためにも、ぜひとも頑張ってください。
- そのためには、行政総体として健康づくりの文化を市全体にひろめていただきたい。イベントでそのとき限りで終わらず、いつでもどこでもだれでもできる内容をイベントに向けて取り組み、イベント後も持続可能な内容がうれしい。
- 健康づくりのまち福知山を目指し、例えば思い切った内容で実現性が薄いと思うが、市庁舎で昼休みが開始した時に1分間体操をみんなですてはどうか。庁内放送で1分間体操のアナウンスを行い、来庁者の方々もご一緒に、と言うことで、市民に健康づくりに

動きがあることを感じてもらいたい。そして地域でも、公民館やいきいきサロンなどで同じような体操を何らかの行事の始まりに1分間行い、健康を維持する風土を感じてもらえればと思っている。

- ・ 学校は子どもたちの体力の低下を数値で目の当たりに感じているので、教育課程の体育を充実させて体力向上させていかなければならない。それに加えて、1分間体操や、創意工夫したリズム運動など、短時間で楽しい動きのあるものを行えればと思う。
- ・ それが家庭で、そして地域に広まるような取組があればと思う。全市で健康づくりの文化醸成を図っていただき、市民の意識を高め、健康寿命が延び、医療費縮減、地域活性化につながり、住みよいまち、住みたいまちになるのではと思う。

倉橋委員

- ・ 私からはキャリア教育に関わってお話したい。今年度2学期に、南陵中学校へ福知山ドッコイセ大使の杉本シェフにお越しいただき、講演をされ、生徒と給食をともにしていただいた。中学1年生からするとミシュラン1つ星のシェフといってもそこまで興味が無いのではないかと考えていたが、生徒からはするどい質問があり、サインの求めなどもあった。料理人を目指す子どもたちもいるのかなと感じたのと、杉本シェフが福知山出身、南陵中出身であることで、親近感が大きな役割を果たしているのではと思っている。
- ・ 福知山で生まれ育って様々な分野で活躍される一流の方々がたくさんおられる。高校時代を福知山で過ごされて一線で活躍されているプロ野球選手の方、ドッコイセ大使の水野パティシエのように福知山に居を構えて日本、世界で活躍されている方、福知山公立大学で地域発展について研究される先生方。多様化の時代であり、子どもたちの夢や希望も本当に多様化している。目的意識のあるなしで子どもたち一人ひとりの成長・発達におおきな影響がでる。杉本シェフも小学校低学年から夢、目的意識を持っていたからこそあれだけの人となった。子どもたちにとって、早くに目的意識を持つことが望ましいことには間違いなさだろうと思う。そういう意味で、福知山市で生まれ育ち、ゆかりのある一流の方に、その分野について触れてもらう、あるいはその人が感じている良さや課題について触れてもらうことは、子どもたちの夢や希望を大きく膨らませたり、福知山の良さを再認識したり実感させたり、今後の福知山の発展について一層深く考えるきっかけになるのではと思っている。
- ・ 福知山市に関わりのある方で様々な分野で活躍されている一流・第一線の方、例えばアスリート、シェフ、パティシエ、学者、弁護士、医者、芸能人、マスコミ、企業経営者、PCクリエイターなど、市外に住んでいる人を10名程度、そして福知山市内で様々な活躍される企業人、大学の先生、農林業で頑張っている方、まちおこしやイベントをされている方などを10名程度、合計20名程度を、「教育のまち福知山推進講師(仮称)」として依頼し、その先生方に年1・2回公演をお願いできないだろうか。その20名を

10年の計画の中で回転していけば、学校にとってもそれほど負担にならないだろうし、講師選定にも苦労は少ない。そういったことで、年に1・2回の講師旅費等を予算化できないかと思っている。

- ・ 先月ごろに綾部市が新しい総合計画を策定するために中学2～3年生全員に意識調査したと新聞記事があった。511人が回答した中で、北部8市町で最も魅力的な市町はどこかという問いに、「福知山」と答えた生徒は半数を超える52.6%であった。(綾部市と舞鶴市は13%)。理由としては、交通の利便性が34%、まちなぎわいが27%、生活環境がいいが22%だった。教育環境は選択肢になかったようだが、生活環境に含まれていると考えている。他市中学生が福知山市に魅力を感じているのは非常にありがたいことであるし、感じている魅力をさらに満足させる、あるいは期待に応える福知山になるよう取り組まなければならない。そして、福知山市の子どもたちが、自分の住むまちは魅力があると半分以上の子どもが答えてくれる、地元へ愛着を持ってもらえる教育が進展していると言える取組を進めたいと思う。
- ・ 先ほど教育長から福知山の教育の10年についてお話いただいたが、先輩たちから引き継ぎ発展させてきた志を持った市民、子どもたちを育てようとする気風が醸成されている福知山だからこそ、地域の子どもたちや近隣市町の子どもたちが魅力を感じるし、そういった福知山でありたいと思う。今後さらにそういった気風を育てるには、市長が述べられたような現代的課題に、教育委員会として咀嚼し、研究していかなければならない。「未来への挑戦」も教材としてぜひとも活用していきたいと思うし、今後教育委員会と市長部局が連携して教材づくりを行うことも、あり得ると思っている。
- ・ 教育委員会予算はそう多くないと実感している。ぜひとも増額を期待するところである。教育のまち福知山推進という項目を設定いただき、先ほど述べた「教育のまち福知山推進講師」のことや、市長が述べられた現代的な課題への対応、そして地元へ愛着をもち、夢、希望、高い志をもった市民と子どもたちが育つ、そんな教育のまち福知山が一層推進できることを期待している。

大橋市長

- ・ 和田委員からは大学の大切さについて、大学はいろんな形で地域貢献いただいております、学習内容でしっかりいろいろな形で連携が必要といったお話をいただいた。
- ・ 4月から公立大学で情報学部ができる。一方で国では、子どもたちが一人一台PCを使える「ギガスクール」の取組を進めようとしている。私の思いとしては、機器を子どもたちに渡すことが目的ではなく、機器を使って何をするかが一番大切であり、福知山の情報教育として何をするかを決めていくことが大事。国が予算措置をされたから機器をそろえます、という話ではなく、その時にどういう知恵や知識をもった方に一緒になって考えていただくかという時に、大学に果たしていただく役割は大きいのではないかと思います。

- ・ 結果的に自治体も多額の予算を要する話になるが、これを進めていくのは単に PC を渡すという話ではなく、その PC を使って、子どもたちが AI / IOT が社会基盤となった未来を自分の力で切り開いていく力を付けるために、福知山市として何が必要なのか、福知山市としての考えを大学と一緒に決めていくことが大切。教員の皆さんの働き方改革や、アダプティブな学習の問題も、そこで検討できればと思う。
- ・ 大槻委員からお話し頂いた「夢の種まき」はとても大事なことだと思う。様々な世界があり、こんな未来が描けるということがわからなければ、ある意味子どもの選択肢を奪っているといえる。子どもたちにいろんな未来の選択肢を見せてあげるためには、倉橋委員からあった、外からの推進講師にお話しをいただくといった場面もあろうかと思う。いろんな形で子どもたち学んでもらうことが大事。
- ・ SDG s に係わっては、例えば家の前で行う「打ち水」などもそうである。SDG s だからと言って特に変わるということではなく、今までの日常生活の中で、物を粗末にしない、ご飯を残さないなど、我々はこれまでから教わってきた。
- ・ SDG s というとなんか難しく感じるが、元々やってきたことをひとつの考え方としてまとめ、今の社会状況の中で新たにやらなければならない部分とを組み合わせ、今まで大切にしてきたことをもう一度見直し、皆で一緒にやっっていこうということだと考えている。
- ・ 塩見委員には健康教育、体力向上についてお話いただいた。チャレンジデーは現在日本全国で実施されているが、実は、長くやっている地域ではもう参加しなくなったという地域もある。なぜかという、チャレンジデーを続ける中で、自分たちの地域で 1 カ月に 1 度隣の町内で対戦しようという習慣ができ、チャレンジデーとしてやらなくてもよいのでは、といったことでやめられるそうである。
- ・ 私も昨年のチャレンジデーに昭和小学校へ行き「昭和体操」を見せていただいたが、その時子どもたちが私のところへ来て「市長、絶対勝ちましょうね！」と握手してくれた。きっかけづくりとしては役に立てたと思っている。
- ・ 全市的に一分間体操をというお話は、職員の勤務時間の問題もあるので、相談をしながら考えさせていただきたい。
- ・ 倉橋委員から頂いた、市内 10 名、市外 10 名の「教育のまち福知山推進講師」のお話、そういう風にした方がわかりやすいし計画も組みやすいと思う。一方で、子どもたちだけを対象とするのではなく、市民の皆さんにお話しを聞いてもらった方がいいという場合もあるし、その両方がよい場合もあろうかと思う。
- ・ 先日、東京ドームで「ふるさと祭り東京」という催しものがあり、踊り振興会と淑徳高校に福知山音頭をやっていただいた。その会場へ、東京在住の福知山出身の方に沢

山応援に来ていただいていた。そういう光景を見ると、市から出て生活しておられる方にとっても、自分たちのふるさとを思い出すきっかけになると思うし、少し整理が必要にはなるが、これから取り組んでいく方がよいかと思う。予算については念頭にはおくが、教育委員会として何らかのことを考えられるかどうか、今後の課題である。

■開会 端野教育長挨拶

- ・ 2点お話をさせていただく。今回の総合教育会議については、教育条件の整理、重点的に講ずべき施策、今後の見通しを持ちながら、時代・社会の変化へ対応する教育に結ぶべき施策としてお話を聞かせていただいた。
- ・ 我々教育委員会、各学校教育機関としては、それをいかに整理し、今後の教育・指導に生かしていくか、どういう場面・環境をつくるか、それらを私達が具体的にし、また市長に相談させていただきたい。
- ・ 2点目には、今後の社会をいかに見通すかが大事なことであり、その上で今後求められる人材はどのようなものか、どういう子どもを、どういう人を育てていくか、どういう力をつけていかなければならないのかをしっかりと見極めることが大切。
- ・ そして、子どもは総合的に育つということが基本原則。その時々様々な流行が沢山あるが、不易の部分も大切にしながら教育について語り、維持すべきものは維持をすという見極めが大事だと思っている。
- ・ 総合教育会議の場だけでは十分に時間はないが、市長のお考えを聞かせていただいた上で、今後も引き続き考えていきたい。

以上